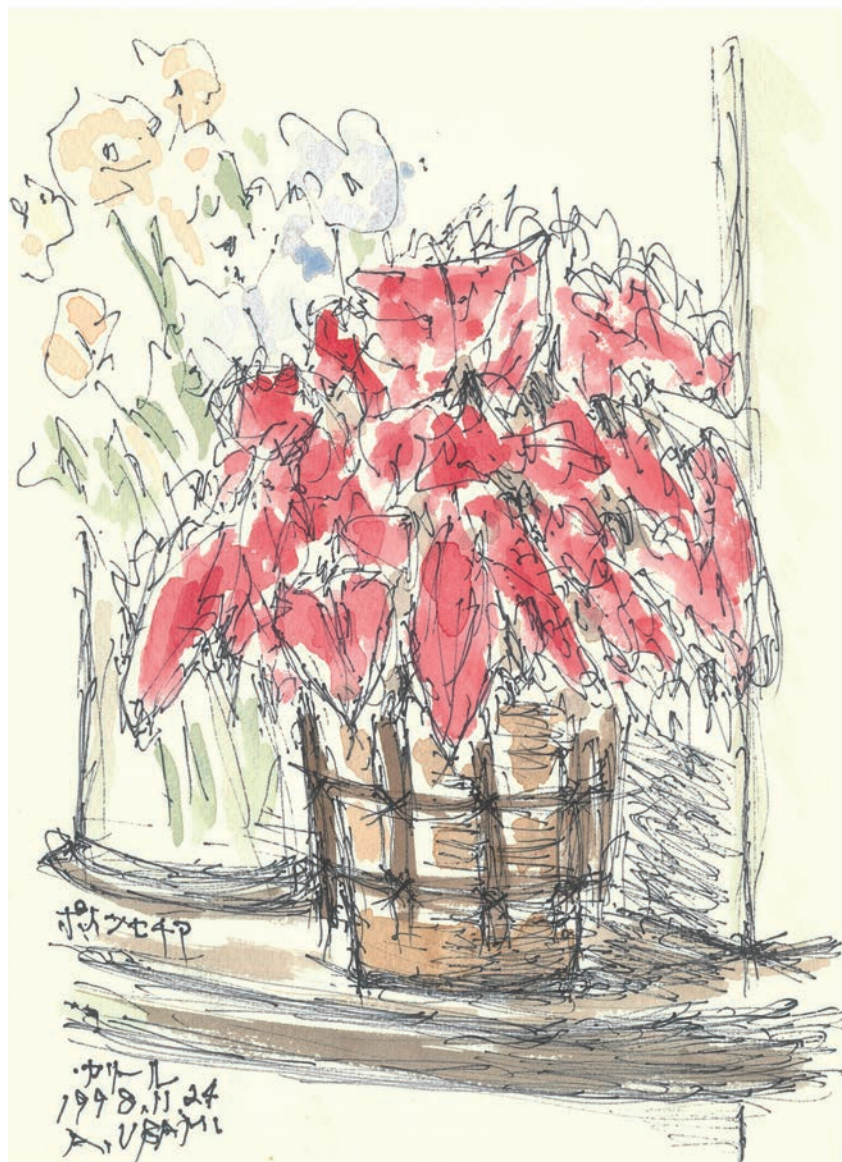


ほっとリハ



表紙作品ご提供 宇佐美 彰様

チョットReha 第49回
今さら聞けないリハビリテーション
リハビリテーション専門病院で
求められる薬剤師の役割

看護部の取組み
～あれ&これ～ご紹介 Vol.33
キャロリングクリスマスコンサート

リハセンター運動紹介 Vol.1
脳卒中患者さん向け
自主トレーニング紹介

医療福祉連携室だより
令和7年度 地域リハビリテーション
セミナー 講演会報告

都リハ トピック
自衛消防訓練審査会について

お知らせ
読者アンケート
ほっとリハ Vol.50 表紙作品紹介

運営理念

リハビリテーションを通して患者さんが生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療を提供し、福祉・介護との連携推進をはかる。



今さら聞けない リハビリテーション専門



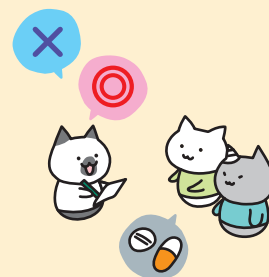
薬は、病気の治療に欠かせない大切なものです。薬（くすり）は逆から読むと「リスク」となります。薬剤師は、患者さんの薬物治療が効果的に円滑に進むように、安全に配慮しながら仕事をしています。目立たない存在ですが、大切な役割です。

薬剤科長 越田 晃



持参薬確認

入院前にどのような薬物治療が行われていたか、自宅での薬の使用方法に問題がないかなどを、患者さんやご家族にインタビューをして確認します。



病棟での服薬指導

薬が安全かつ適切に使用できるように、患者さん個々に合わせて、薬に関する説明・指導等を行っています。薬に関する疑問や不安の解消に努めています。遠慮なく、ご相談ください。

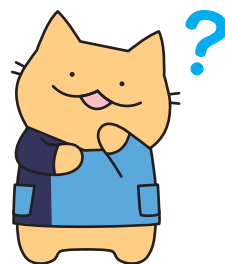


多職種連携（チーム医療の実践）

院内の医師、看護師、各種セラピスト、管理栄養士、MSW（医療ソーシャルワーカー）などの各専門の医療スタッフと多職種連携を構築しながら、医療チームの一員として対応しています。栄養管理チーム（NST）、褥瘡チーム、感染制御チーム（ICT）などに参画し、患者さんに適した薬の提案などを行っています。また、退院後の生活が円滑に進むように、地域の薬剤師やケアマネジャー（介護支援専門員）などとも連携します。

リハビリテーション

病院で求められる薬剤師の役割



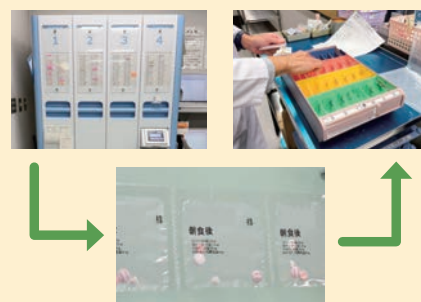
大切なアドバイス：ポリファーマシーに気をつけよう

ポリファーマシーとは「poly（多くの）」＋「pharmacy（薬）」→「多剤併用」を意味する造語です。薬の種類や数が多くなると副作用が発生する頻度が高くなります。同じ効果の薬（重複投与）や薬の飲み合わせ（相互作用）に注意するために、「おくすり手帳」を活用することも重要です。1冊にまとめて管理しましょう。



調剤業務（注射を含む）

医師が発行する“処方箋”に基づいて、患者さんが薬を適切に使用できるように調製します。薬の投与量、薬の飲み合わせ（相互作用）などを確認し、処方内容に疑問があれば、医師に照会します。また、患者さんの病態に応じて薬の投与量の調整などを医師に提案します。これらは、薬を安全に有効に使用するために重要な仕事です。服用の1回量毎に調剤する一包化調剤、嚥下困難な患者さんへの対応など、様々に調剤方法を工夫しています。



今回は薬剤科の主な業務紹介をします。今年も皆様にとって素敵な一年になりますように 🐱



製剤業務

治療上必要とされながらも市販されていない薬剤について、院内の手続きを踏まえて、院内製剤を調製しています。



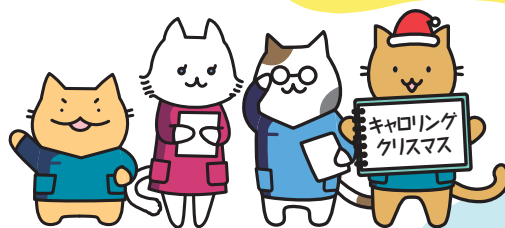
災害対応（薬の備蓄）

地震などの災害が発生した場合には、薬の供給が途絶えてしまいます。災害時にも適切な医療が提供できるように備えています。



看護部の取組み ～あれ&これ～ご紹介

Vol.33



キャロリングクリスマスコンサート

皆さんは「キャロリング」ってご存知でしょうか？「キャロリング」は冬のクリスマスシーズンに行われる訪問型の歌の伝統で、主に街や家の前を訪ねて歌を披露する行為です。ほっとリハ新年号にクリスマスの話？と思われるかもしれませんが、なかなかタイムリーに紹介できないので今回ご紹介させていただきます。

当院では12月の第3土曜日にNYMC JAPANのメンバーがボランティアでキャロリングコンサートを開催しています。このメンバーはニューヨークで勤務されていたお仲間で結成された男声合唱団で、定期的にマンハッタンでコンサートを開催していましたが、クリスマスを病院で過ごされる患者を歌で慰問しようということになり、ニュージャージー州にあるイングルウッドクリフ病院でクリスマスソングを歌いながら病室を回るキャロリングを実施したことが始まりです。帰国して結成した現在のNYMC JAPANもクリスマスの慰問を日本でも実施しようということになり、ご縁があって当院に20年以上に渡りボランティアでキャロリングコンサートを開催して頂いています。

コンサートではメンバーが全員タキシードに蝶

ネクタイの正装で臨まれ、病棟の廊下から歌い始まり、各病棟の食堂に移動しコンサートが始まります。素晴らしい歌声のクリスマスソング、童謡、歌謡曲、時にはお笑い要素たっぷりの演歌を交えたコントあり、まさにエンターテインメント満載のコンサートです。

患者さんたちは一緒に歌を歌ったり、手拍子したり、時には歌声に感動し涙ぐまれたりして、終了時には「このコンサートを聞くためにまた来年も入院したい」などと話される患者さんもうらっしゃるほどでした。

コンサートの締めくくりは、吹き抜けの広いエントランスにあるクリスマスツリーの前で行います。吹き抜けの効果で歌声が響きわたり本当に素敵です。

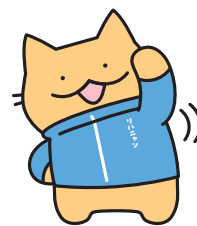
毎年HPやポスター掲示でお知らせしておりますので、まだ聞いたことがない、見たことがないという皆様は、ぜひ今年のコンサートを聞きに来て下さいね。

看護部 副看護部長 五十嵐美千代





脳卒中患者さん向け 自主トレーニング紹介



これから4回にわたり、**理学療法**▶作業療法▶言語療法▶心理療法部門の順に自主トレを連載します。

1. 体幹の回旋練習

寝返り・起き上がり動作の改善 歩行再建への準備

- ① 両足を曲げて揃える。 ② 足を左右へゆっくり倒す。



回数：左右10回×2セット程度／日

※左右が非対称にならないように、気をつけて行ってください。

2. 立ち上がり練習

左右非対称な動きの改善 麻痺側の足で支える力を強化

- ① 麻痺側の足（踵）に体重をかけてゆっくり立ち上がる。 ② つま先より膝が前に出ないように注意する。



回数：5～10回×2セット程度／日

※バランスに不安がある方は、机や手すりを使用して安全に行えるように注意しましょう。

今回ご紹介した自主トレは、主に片麻痺を呈した方を対象としています。そのため医師・担当セラピスト等に安全に行えるかどうかを確認し、正しい姿勢で取り組めるようになってから開始するのが良いと思います。また、痛みがでる場合や気分が優れないときは無理をせず、運動はお控えください。

理学療法部門 重元 伸 悟



医療福祉連携室だより



令和7年度 地域リハビリテーションセミナー 講演会報告

令和7年11月12日（水）に、第5回地域リハビリテーションセミナー「災害時リハビリテーションの役割と多職種連携～能登半島地震を踏まえた東京都の課題と展望～」を江東区亀戸文化センターにて開催しました。

講師は、慶応義塾大学病院 医学部リハビリテーション医学教室 専任講師、東京都JRAT副事務局長の和田 彩子氏をお迎えし、ご講演いただきました。

和田先生は、自らも能登半島でのリハビリテーション支援を経験しており、能登半島での事務局の役割や現場での支援まで幅広くご報告いただきました。

講師はリハ専門職だけでなく、医師、看護師、介護職、社会福祉協議会職員、行政職など様々な方にご参加いただきました。

能登半島地震で被災をした方々は、自宅や避難所といったICFでいうところの環境因子が大きく変化をします。そのため、活動や参加にまで影響を及ぼすこと、また役割や経済的な基盤が奪われ、心身機能にも大きな影響を与えることで生活不活発病に陥ってしまうことを丁寧に話してくださいました。

JRATも初期段階の1月6日に本部を立ち上げ、他の支援団体とともに支援活動を行ってまいりました。また今回の支援で特徴的なところは1.5次避難所を開設し、避難者の生活機能に合わせて振り分けることをしたところです。その1.5次避難所にもJRATから派遣されたリハ専門職が、リハビリテーショントリアージとともに、避難者の生活機能の維持向上や摂食嚥下機能への対応、生活機能に適合した避難所環境の工夫や支援、閉じこもりの防止、次の住まいの環境調整などリハビリテーション的な支援活動を行ってまいりました。

また被災地における現場での事務作業に関しては、JRATでも紙媒体ではなく電子媒体での作業

になっており、定型のひな型への入力が必要付けられております。これからの被災地支援においては、リハビリテーショントリアージの技術や生活機能に応じた環境調整の技術だけでなく、ICTに関する知識も身に付けておくことが重要であると感じました。

能登半島地震から二年が経過し、未だ生活の見通しが立たない方も多くいらっしゃいます。一日も早く平穏な生活を取り戻していただき、そのための支援をしていきたいと改めて考えました。

和田先生からは、JRATと東京都とが協定を結び、今後は区市町村ごとにどのように被災時の支援をするか、地域ごとに検討をすることが必要である。日頃からの顔の見える関係作りが被災時には最も力になると強く述べられました。

地震だけでなく、水害や感染症など様々な災害に被災する可能性があります。我々リハ専門職も地域での活動に従事しておりますが、地域づくりの支援が難局を改善するための一つの力になっていると思います。いっそうリハビリテーション活動や地域活動に注力する機会になりました。今後も多職種の方々と連携し、有事に対する対策を検討していきたいと考えております。

事業推進課 齋藤 正 洋



第5回地域リハセミナー



REHA TOPIC
都リハ トピック

自衛消防訓練審査会について

今年度の自衛消防訓練審査会には、向島消防署管轄地域から12隊がエントリーし、当院からは2隊が出場しました。

多職種で構成された2隊は、業務の合間を縫って練習を重ね、作戦会議しながらにセリフや動きを確認し、時には笑い合いながらも本気で取り組む姿にチームワークの良さと深まる息の合った連携に期待が高まりました。

また、練習中に響き渡る号令に、「今日も気合い入ってるね」と声をかけられる場面もありました。

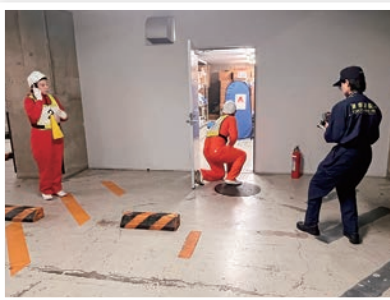
その努力の甲斐もあって、A隊は優秀賞（3位以内相当）を受賞。B隊も優良賞を獲得し、健闘

ぶりを見せてくれました。両隊の頑張りは本当に素晴らしく、思わず拍手を送りたくなるような成果でした。

今回の成果に満足することなく、次こそは最優秀賞を——。すでにそんな熱い声が聞こえてきています。次回参加する隊員達の活躍にもぜひご期待ください。



事務局 総務課 総務担当 林 龍太郎



お知らせ

日頃より広報誌をご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後の誌面の充実を図るため、読者アンケートを実施しております。ご意見・ご感想をお寄せいただけますと幸いです。

皆さまの率直なお声を、今後の編集に反映させてまいります。

ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



ほっとリハ Vol.50 の表紙作品としてご提供いただいた映像作品は、こちらからご覧いただけます。



表紙解説



表紙作品ご提供

宇佐美 彰様

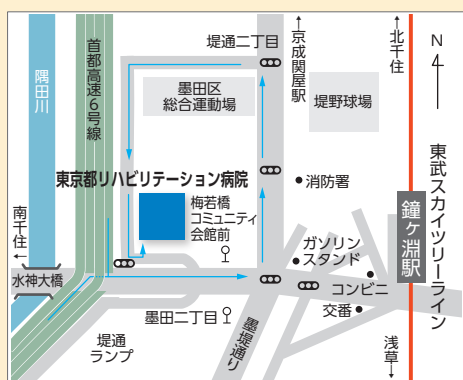
「ポインセチア」

30年前、脳卒中により右半身に麻痺が起きました。昔からの友人が営む喫茶店を訪れた際、店内に飾られていた花を、もとは右利きでしたが、リハビリ目的(利き手交換の練習)のため左手で描きました。

宇佐美様コメント

もともとデザイナーとして活動していたこともあり、この絵をきっかけに、再び絵を描くようになって、友達のカフェで個展を開くようになりました。

交通案内



- JR山手線
- JR総武線快速
- JR中央線・総武線各駅停車
- JR中央線快速
- 東京メトロ千代田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東武スカイツリーライン
- 東武亀戸線
- 京成本線



南千住	都営バス	10分	梅田二丁目	徒歩	2分
錦糸町	都営バス	25分	墨田二丁目	徒歩	4分
浅草	東京メトロ半蔵門線	12分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
亀戸	東武スカイツリーライン	10分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
北千住	東武スカイツリーライン	5分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
京成上野	京成本線	12分	京成関屋	徒歩	15分

※東京都リハビリテーション病院は、東京都が設置し、公益社団法人 東京都医師会が指定管理者として運営を行っている病院です。

東京都リハビリテーション病院



2026年1月1日(木)発行

東京都リハビリテーション病院 広報委員会

〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1
TEL: 03-3616-8600 FAX: 03-3616-8705
<https://www.tokyo-reha.jp/>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

編集
後記

新年あけましておめでとうございます。本年は、当院にとって節目となる「病院機能評価」の受賞を予定しています。現在、委員会や各部門長を中心に、自己評価で明らかになった課題の改善や、マニュアルの整備を進めています。前回の認定よりも高い評価をいただけるよう、職員一同、心をひとつにして取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。